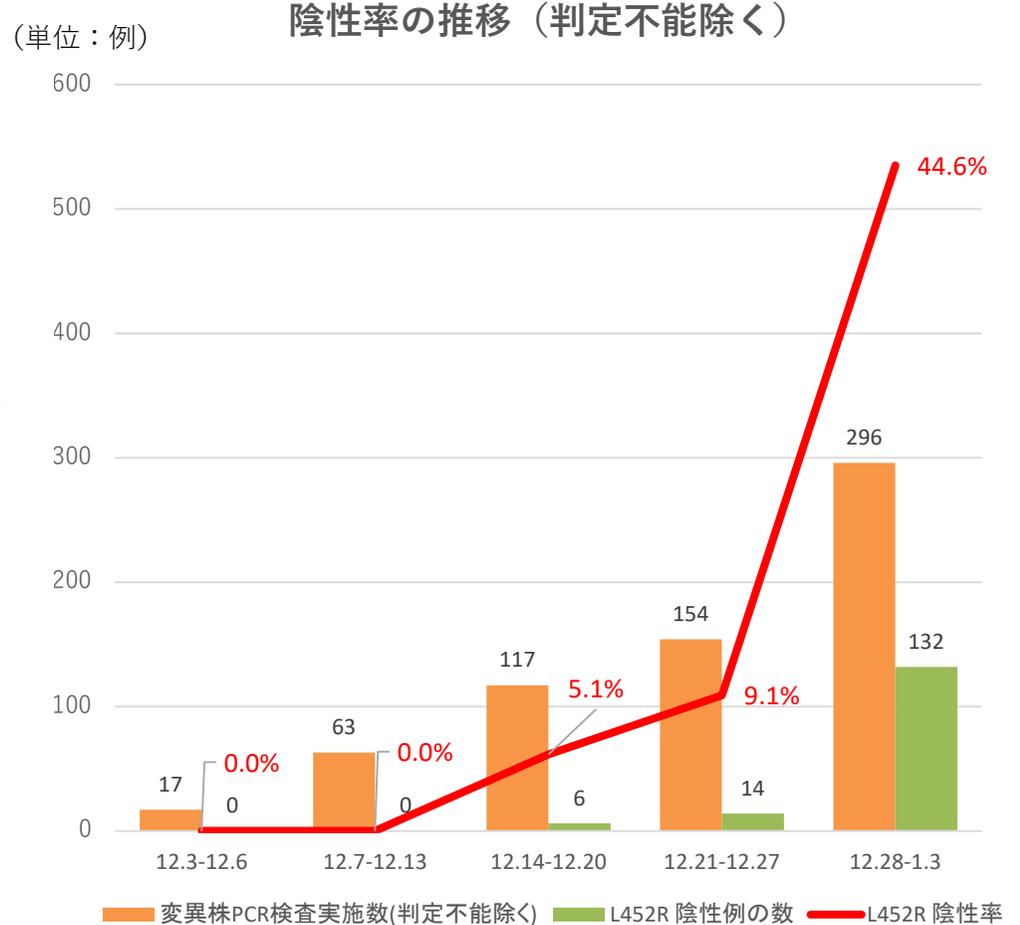
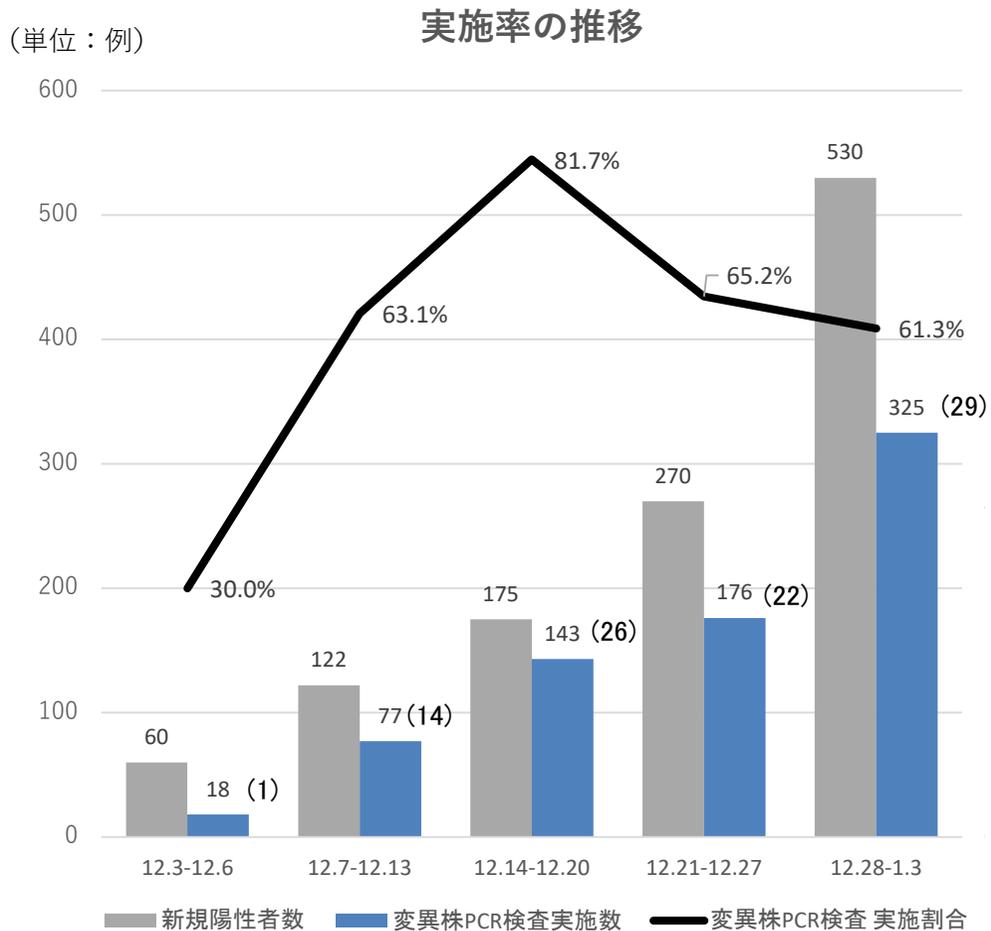


都内のL452R変異株PCR検査 実施状況 〔オミクロン株疑い(L452R陰性)の推移〕

(令和4年1月5日時点)



- ※ 変異株PCR検査実施数及び陰性例の数は、健安研及び民間検査機関等の合計
- ※ 変異株PCR検査実施数については、追加の報告により、更新する可能性がある。
- ※ 「判定不能」とは、ウイルス量が少ない等の理由により、変異についての判定ができないもの
- ※ 「実施率の推移」グラフにおける、実施数の()内の数字は判定不能となった検体数(内数)

都内のL452R変異株PCR検査 実施状況一覧 〔オミクロン株疑い(L452R陰性)の推移〕

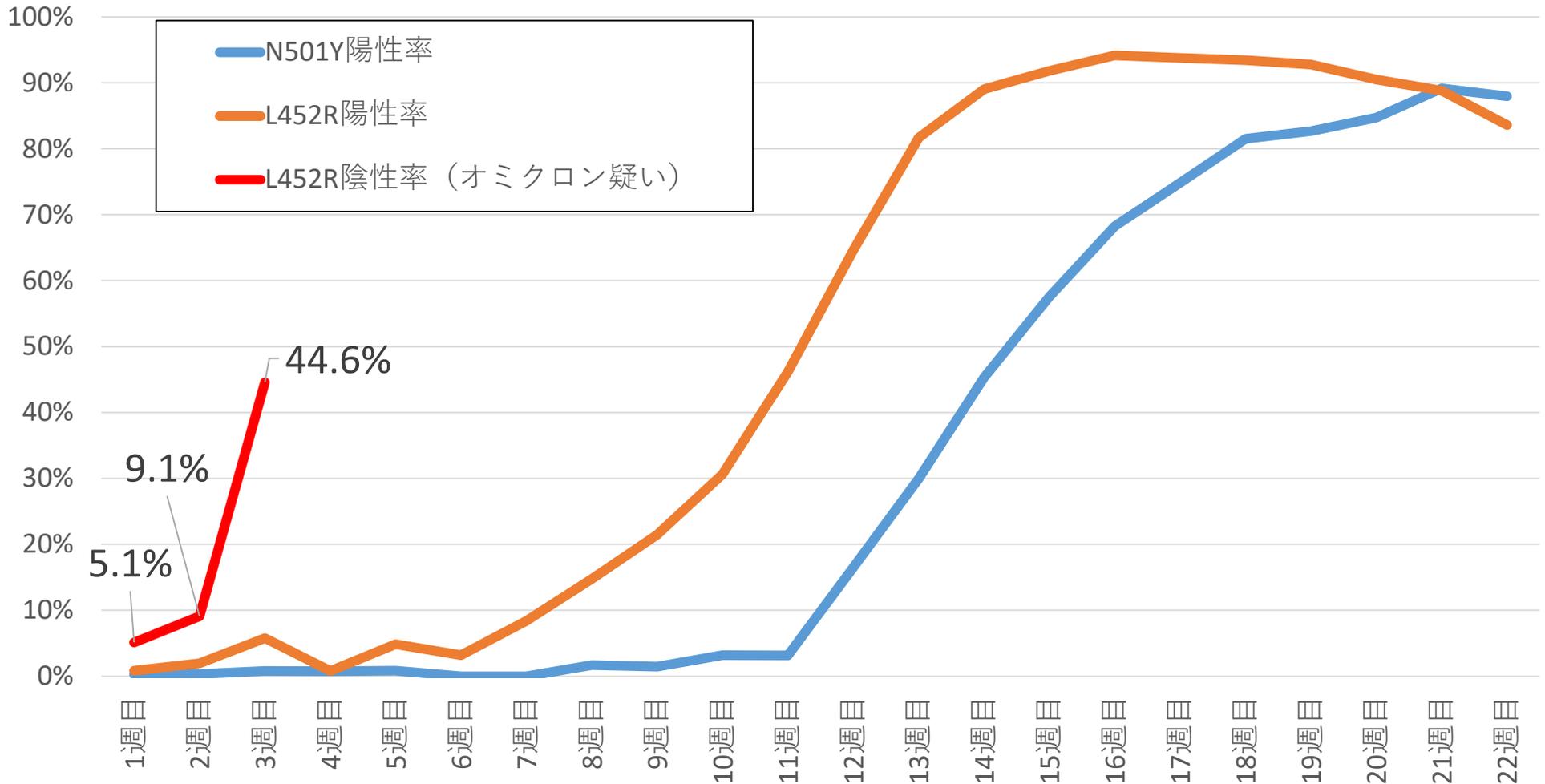
(令和4年1月5日時点)

	合計数	12.2まで	12.3-12.6	12.7-12.13	12.14-12.20	12.21-12.27	12.28-1.3
新規陽性者数（報告日別）	—	—	60	122	175	270	530
変異株PCR検査実施数	768	29	18	77	143	176	325
健安研	266	29	2	28	56	52	99
民間検査機関等	502	0	16	49	87	124	226
変異株PCR検査 実施割合	—	—	30.0%	63.1%	81.7%	65.2%	61.3%
L452R変異株 陰性数	152	0	0	0	6	14	132
健安研	47	0	0	0	6	7	34
民間検査機関等	105	0	0	0	0	7	98
判定不能件数	95	3	1	14	26	22	29
L452R変異株PCR検査 陰性率	—	—	0.0%	0.0%	5.1%	9.1%	44.6%

- ※ 12月以降のL452R陰性（デルタ株ではない）は、オミクロン株であることが推測できることからL452R陰性数を計上
- ※ 民間検査機関等の実施数については、追加の報告により、更新する可能性がある
- ※ L452R変異株PCR検査陰性率は、判定不能件数を、検査実施数から除外して算出

都内のL452R変異株PCR検査 実施状況 〔オミクロン株疑い(L452R陰性)の推移〕

(令和4年1月5日時点)



※ N501Yの起算点は、健安研におけるスクリーニング検査で初めて陽性が確認された1.11-1.17の週とする。

※ L452Rの起算点は、健安研におけるスクリーニング検査開始(4/30~)後、初めて陽性が確認された5.3-5.9の週とする。

なお、L452Rのスクリーニング検査は、健安研において4/30から開始した。4/29以前については、4/1から4/29に受け付けた検体のうち、検査可能な検体から抽出し、改めてスクリーニング検査を実施している。(4/29以前は5例の陽性例が検出されている。)

※ L452R陰性率(オミクロン株疑い)の起算点は、健安研におけるスクリーニング検査で初めて陽性が確認された12.14-12.20の週とする。

※ L452Rの陰性率(オミクロン株疑い)は、判定不能を除いて算出

オミクロン株の発生件数（7日間平均）の推計

東京都では、医療提供体制におけるオミクロン株特別対応として、オミクロン株の新規陽性者の7日間平均が概ね100以上となった場合には、病床確保レベルを1からレベル3に移行することとしている。

$$\begin{aligned} \text{L452R陰性率} &= \frac{\text{(L452 R 陰性件数)}}{\text{(検査実施数 - 判定不能数)}} \\ \text{オミクロン株推計} &= \text{(新規陽性者数 (1週間累計))} \times \text{(L452R陰性率)} \end{aligned}$$

(令和4年1月5日時点)

	〔4週前〕 12/7(火)～ 12/13(月)	〔3週前〕 12/14(火)～ 12/20(月)	〔2週前〕 12/21(火)～ 12/27(月)	〔前週〕 12/28(火)～ 1/3(月)	〔直近7日間〕 12/30(木)～ 1/5(水)
新規陽性者数 (1週間累計)	122件	175件	270件	530件	949件
変異株PCR検査実施数 (1週間累計)	77件	143件	176件	325件	378件
L452Rの陰性率	0.0%	5.1%	9.1%	44.6%	59.9%
オミクロン株 新規陽性者(推計) (1週間累計)	0人	9人	25人	236人	568人
<u>オミクロン株 新規陽性者(推計)</u> <u>(7日間平均)</u>	0人	1.3人	3.5人	33.8人	81.2人

- ※ 「変異株PCR検査実施数」は、健康安全研究センター・民間検査機関等のL452R変異株検査数の合計値
- ※ 「変異株PCR検査実施数」「L452Rの陰性率」は、民間検査機関等において、検査から報告までにタイムラグがある場合、前週までの数字を遡って変更している。
- ※ 「L452Rの陰性率」には、海外渡航歴があるオミクロン株感染患者を含む。(健康安全研究センターでは、海外渡航歴のあるオミクロン株感染患者の検体を集めていることに留意する必要がある)

オミクロン株の状況

懸念される変異株（VOC）

○ 11/28 国立感染症研においてVOCに位置付け(WHO,EU ECDC,UK HSA,US CDCでもVOCに位置付け)

	ベータ株	ガンマ株	デルタ株	オミクロン株
感染性	5割程度高い可能性	1.4-2.2倍高い可能性	高い可能性 (アルファ株の1.5倍高い可能性)	高い可能性
重篤度	入院時死亡リスクが高い可能性	入院リスクが高い可能性	入院リスクが高い可能性	十分な疫学情報が無く不明
ワクチン効果	効果を弱める可能性	効果を弱める可能性	効果を弱める可能性	効果を弱める可能性
抗体医薬効果	効果を弱める可能性	効果を弱める可能性	—	—
再感染	—	従来株感染者の再感染事例の報告あり	—	再感染リスク増加の可能性

※ 第65回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボードの資料を基に作成

※ オミクロン株については現時点ではウイルスの性状に関する実験的な評価や疫学的な情報が限られていることから注視が必要である

オミクロン株（海外の状況）

- 2021年12月22日時点までに、WHOの世界6つの地域(アフリカ、米州、南東アジア、欧州、東地中海、西太平洋地域)において確認（110か国）(※1)
- 英国の、12月30日時点におけるこれまでのオミクロン感染者数は**246,780人** (※2)
- 米国では、12月26日－1月1日の週の新規感染者に占める**オミクロン株の割合を95.4%**と推定(※3)。1月3日の1日あたりの新規感染者数は1,082,549人(過去最多)(※4)

※1 Enhancing Readiness for Omicron (B.1.1.529): Technical Brief and Priority Actions for Member States 23 December 2021(W H O)

※2 Omicron daily overview: 31December 2021 (UK Health Security Agency)

※3 Variant Proportions in USA 12/26-1/1 (COVID Data Tracker)(CDC)

※4 Johns Hopkins Coronavirus Resource Center

換気の重要性

- ✓ 換気が悪いと、**空気中にウイルスが長時間漂う**ことも
- ⇒ ウイルス量を下げるためにも、**部屋の十分な換気を!**
- ⇒ **基本の他にも、3つのポイントを抑えて換気を実践!**

換気の基本

部屋の対角線にある2か所の窓や扉を常時5~10cm開ける

寒い日でも、室温は18℃以上、湿度は40%以上に。

ポイント 1

24時間換気システムの活用

ポイント 2

レンジフードの活用

ポイント 3

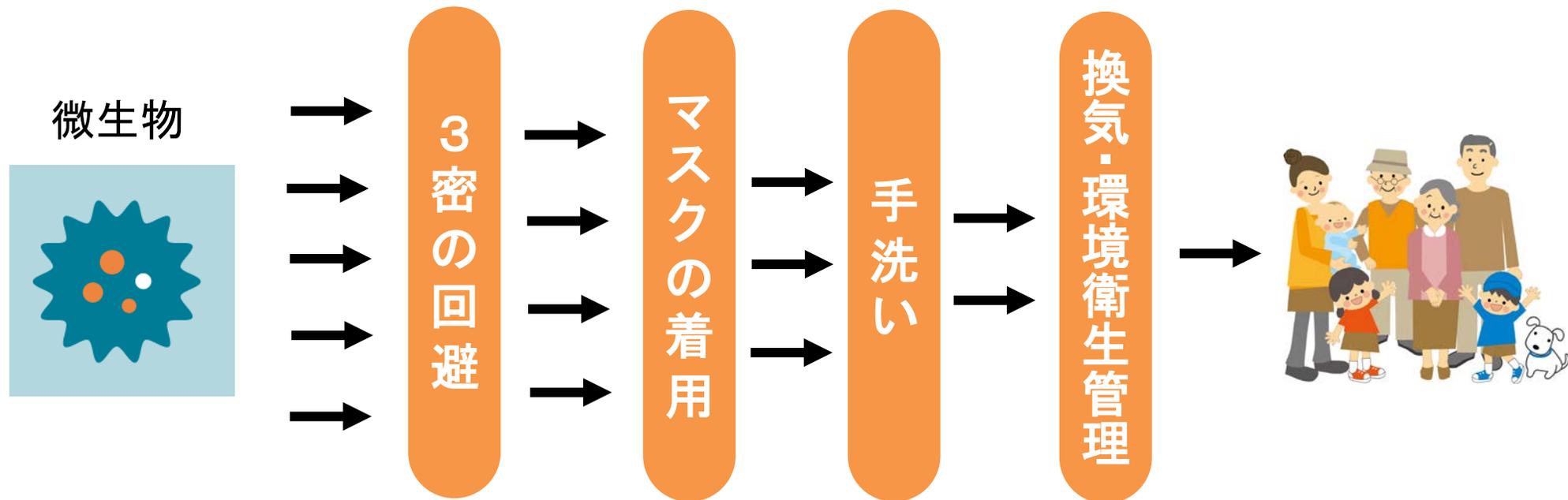
空気清浄機の活用
(効果的な配置方法等)

iCDCのnoteに、**おうち・オフィスの換気、通勤時のポイント**をまとめています。



徹底した感染症対策の継続

- ✓ 微生物の伝播を100%防ぐことは不可能
- ✓ 3回目(ブースター)を含めたワクチン接種を進めるとともに、**総合的な感染対策**によってリスク軽減を図っていく必要



ワクチン接種後であっても、今後の継続した感染症対策が極めて重要で、円滑な社会・経済活動の鍵となる